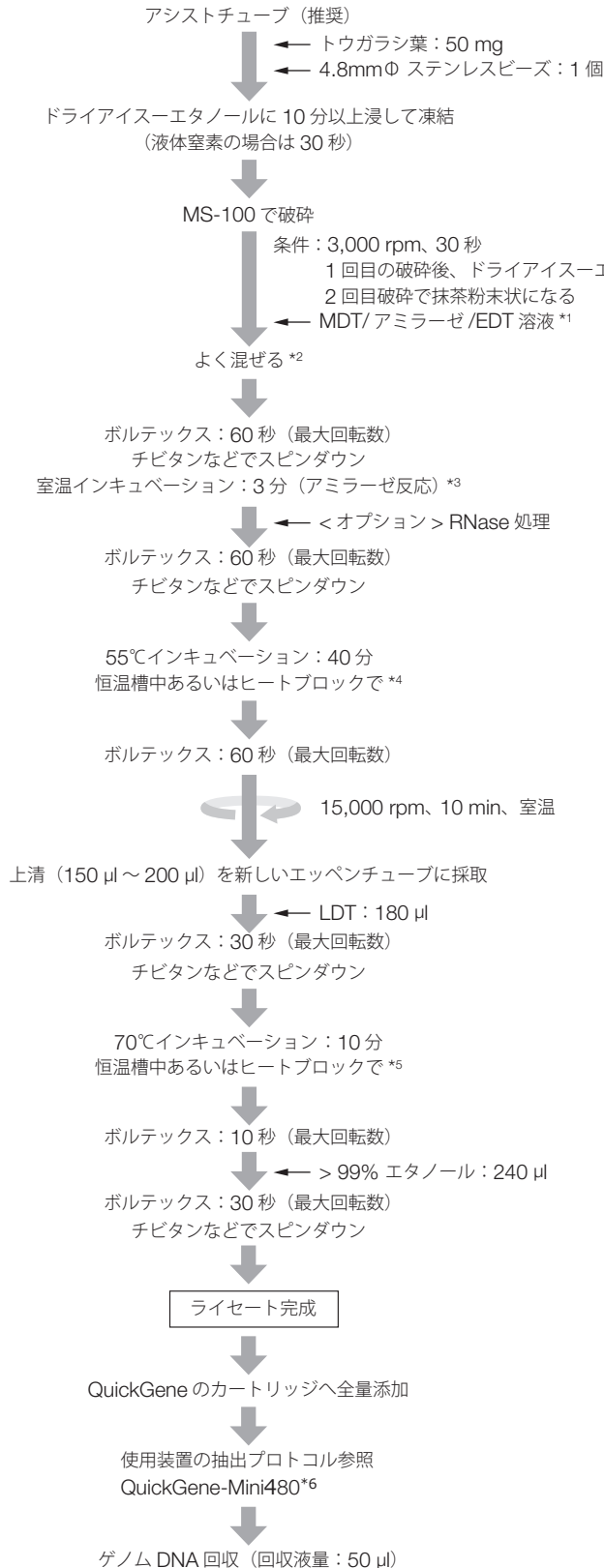


DB-5

トウガラシ葉からのゲノムDNA分離

プロトコル



*1 SIGMA A-3403
1 サンプルにつき
αアミラーゼ*1 μl
EDT (ProK)20 μl
MDT180 μl
アミラーゼを入れると収量が 2 倍近く上がるが、PCR 実験は未確認のため、PCR がからなければ削除。

*2 ビーズがはまり込んで動かない時には、チューブを逆さまにして机上で 1 回叩く。
ビーズを壁内をまんべんなく混ぜるようにチューブを振りながら回転させ、ムラをなくす。
くすんだ濃い緑色になる。

*3 ProK はこの温度では働かないが、アミラーゼが働く。

*4 ProK によるタンパク質分解過程。

*5 アミラーゼを使用しているため、より強力にタンパク質を壊すため。
PCR のかかりが悪いなど、トラブルがある場合は削除。

*6 本事例は旧機種で取得したデータも含まれます。
その他 QuickGene シリーズでもこのプロトコルをご参考頂けます。

結果

■ 電気泳動図

データなし

■ ゲノム DNA の収量

データなし

■ タンパク質の混入：A260/280

データなし

■ カオトロピック塩の混入：A260/230

データなし

■ その他

データなし

■ 共通プロトコルサンプル

データなし